

令和7年度 敬老事業に係るアンケート 集計結果

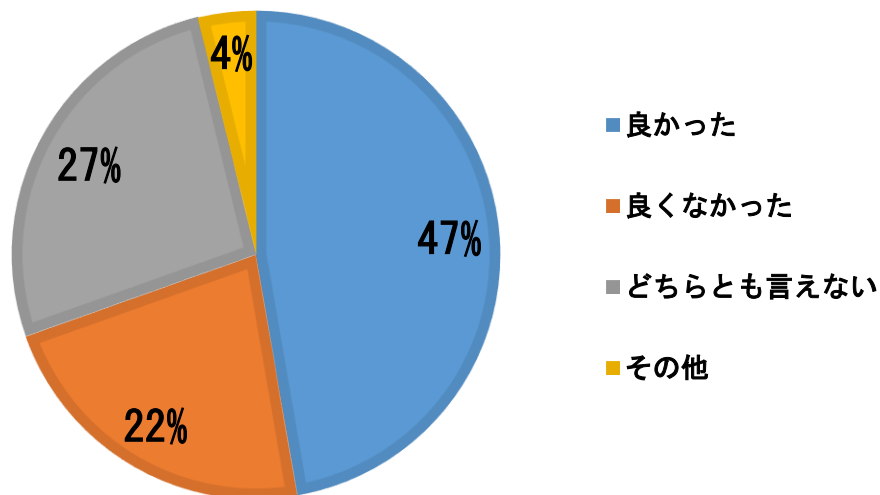
実施時期：令和7年8月28日～令和8年3月31日

配布行政区：272

回答行政区：184（うちオンライン回答68）

回答率：67.6%

〔問1〕 今年度、敬老会等の開催に際し交付を行った「敬老会等開催支援事業交付金」制度についてどのように思われますか？（一つに〇）

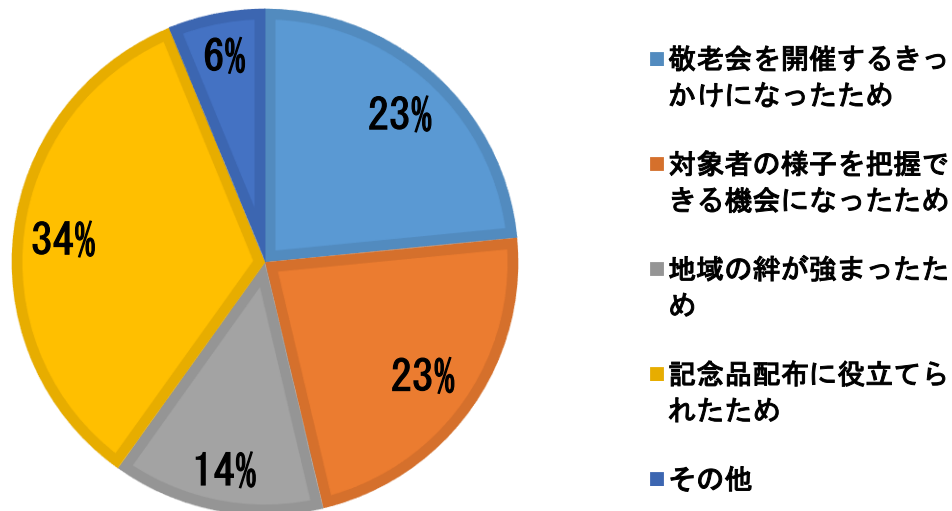


〈その他へ意見：主なもの〉

- ・経費面で助かると思います。
- ・敬老会開催できたことに感謝です。
- ・良くなかった。対象者が増え、物価も上がっている中、補助金が下がるのは大変残念です。参加者への弁当も、少し粗末な物に変更せざるを得なくなりました。
- ・高齢者の中には、日ごろ出歩かない人もあり、久々にいろいろと話ができて楽しかったとの意見があった。
- ・もらう側が望むものを選びやすいのは、渡す側にとっても良い点。一方で、会を行うかどうかで「記念品の単価」に差が生じるのは良くない。
- ・タオル1本位の品でいいと思います。その分、別な予算に使用するべき。①元気会②子供支援③道路整備など。

[問2] [問1]で「ア 良かった」と回答された方へ伺います。どのような点が良かったと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

- ア 敬老会を開催するきっかけになったため。
- イ 対象者の様子を把握できる機会になったため。
- ウ 地域の絆が強まったため。
- エ 記念品配布に役立てられたため。
- オ その他

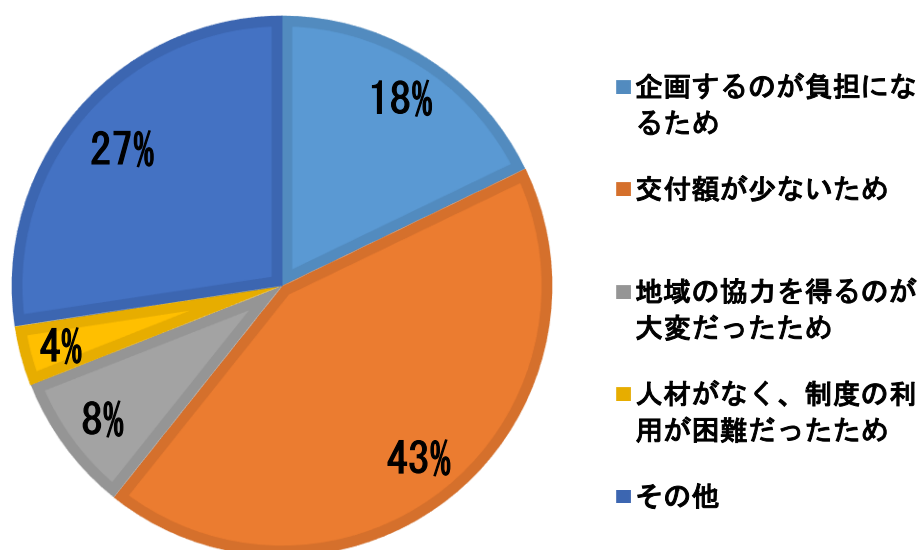


〈その他への意見：主なもの〉

- ・対象者全員に紅白の饅頭を配布、また参加者の人は商品券を配布した。
- ・集まって商品券を配布できる。
- ・開催を楽しみにしている人が多くいた。
- ・おもてなしができた。
- ・他地区の対象者の様子が再確認できる機会になった。記念品については、各集落で準備するのは大変なので、来年度以降は市役所の方で一律同じ物を準備して欲しいです。
- ・対象者の顔を拝見することにより現状把握ができた。
- ・普段把握しきれないが、よくご様子を伺うことが出来た。
- ・準備など大変だが、参加者が喜んでくれた。
- ・参加された方々の笑顔を確認できたことです。
- ・やや少額でも助かる。

【問3】 【問1】で「イ 良くなかった」と回答された方へ伺います。どのような点が良くなかったと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

- ア 企画するのが負担になるため。
- イ 交付額が少ないため。
- ウ 地域の協力を得るのが大変だったため。
- エ 人材がなく、制度の利用が困難だったため。
- オ その他



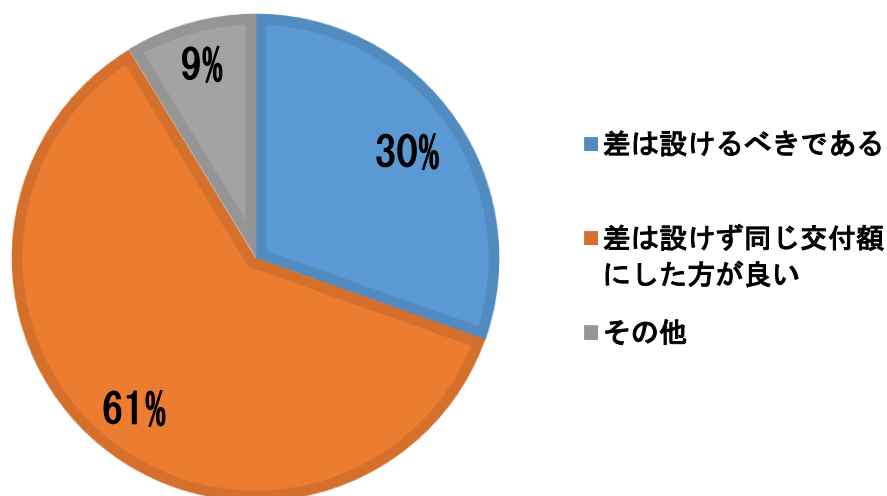
〈その他への意見：主なもの〉

- ・ 交付金が年々少なくなり、開催に苦慮する。
- ・ 交付金に差を設けたことは間違っていると考えるから。
- ・ 昨年同様にしてほしかった。
- ・ 昨年度より減額となり記念品選びに苦労した。
- ・ 交付金は一律同一金額の方が良い。
- ・ 敬老会を実施するのと同額を支給しなかったから。
- ・ 喜多方市も市主催者として喜多方プラザ等を使用し、該当者が一同に会する敬老会の企画・立案を早急に検討して欲しいと要望します。
- ・ めんどくさい。代表者（区長）の負担だけが増える。
- ・ あまり有意義な事業とは思えない、費用対効果が低い。

[問4] 今年度は、敬老会開催にかかる準備費用等を考慮し以下のとおり交付額を二段階としたところですが、このことについてどのように思われますか？（一つに○）

区 分	交付額
敬老会等を開催する場合	1人当たり 1,700円
記念品等を配布する場合	1人当たり 1,200円

- ア 差は設けるべきである。
- イ 差は設けず同じ交付額にした方が良い。
- ウ その他

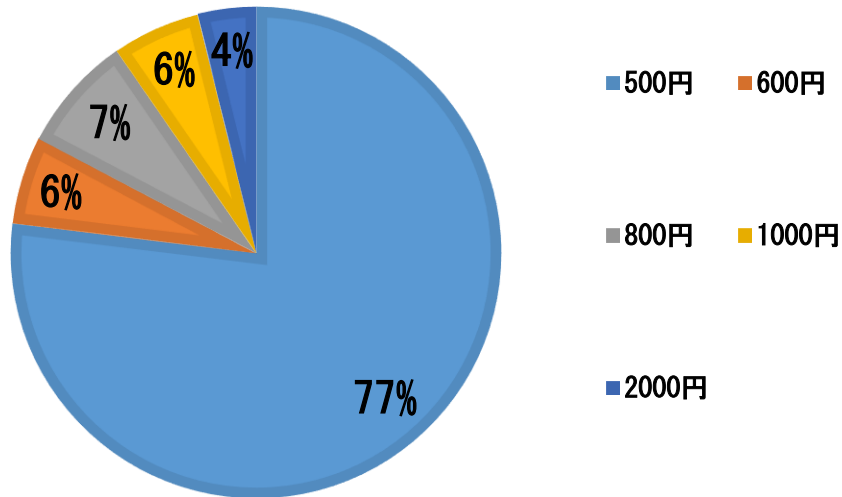


〈その他への意見：主なもの〉

- ・開催するさまざまな負担を考えれば500円程度の差は妥当。
- ・制度自体、廃止してもいいと思う。
- ・高齢者の生活状況に合わせた支援事業の実施。
- ・基本的には差を設けず、敬老会等を開催するときに加算額として交付する。
- ・差をつける意味が理解できない。不公平感がある。
- ・最初から1,700円/1,200円ではなく、今年度を例とすれば、一律1,200円/人とし、敬老会開催する場合はプラス500円/人とすれば、差を設ける事にはならないと思う。
- ・一人当たりの金額は同じにして、敬老会を開催する地区には開催費用として別途予算を付ける。
- ・経費等の準備を考慮すれば、差が生じるのは当然と考えられるが、どちらにしても交付額が低すぎる。この金額内でやれることはかなり限られてしまうので、これであれば、やらなくて良いと思う。
- ・開催するには大変な労力がかかるし、差はつけるべきである。

[問5] [問4]で「ア 差は設けるべきである」と回答された方に伺います。今後において、今年度のように交付額を二段階にするとすれば、いくら位の上乗せが適切だと思いますか？（今年度は、1,200 円に 500 円の上乗せをしています。）（一つに○）

- ア 1人当たり 500 円を上乗せする。 ※今年度と同じ
- イ 1人当たり _____ 円を上乗せする。（上乗せ額を記入）
- ウ その他

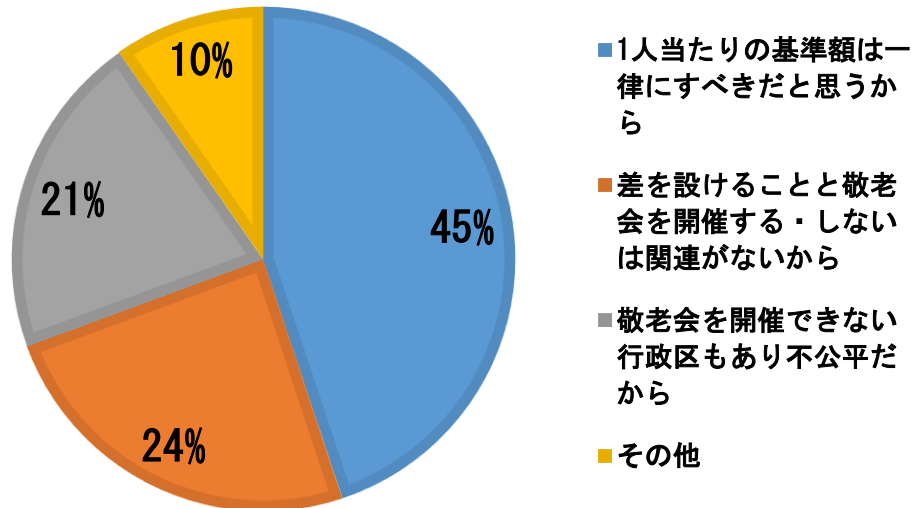


〈その他への意見：主なもの〉

- ・ 事務費は必要ないと思います。（初年度は必要）
- ・ 当行政区は配布であるが昨年（第1回目）の交付額を基準としてお祝いの品を届けている。7年度は1,200円であるが、1,850円相当の祝い品を配布。差額は行政区負担。
- ・ 不参加者への商品券を仮に1,000円とすれば、そこに行事開催経費をいくらで見積もるか、になると思います。①行事をしない町内1,200円②行事をする町内2,000円くらいでも良いと思います。
- ・ アトラクションが良かったという人が多かった。

〔問6〕 〔問4〕で「イ 差は設けず同じ交付額にした方が良い」と回答された方へ伺います。どのような理由からですか？（あてはまるものすべてに○）

- ア 1人当たりの基準額は一律にすべきだと思うから。
- イ 差を設けることと敬老会を開催する・しないは関連がないから。
- ウ 敬老会を開催できない行政区もあり不公平だから。
- エ その他



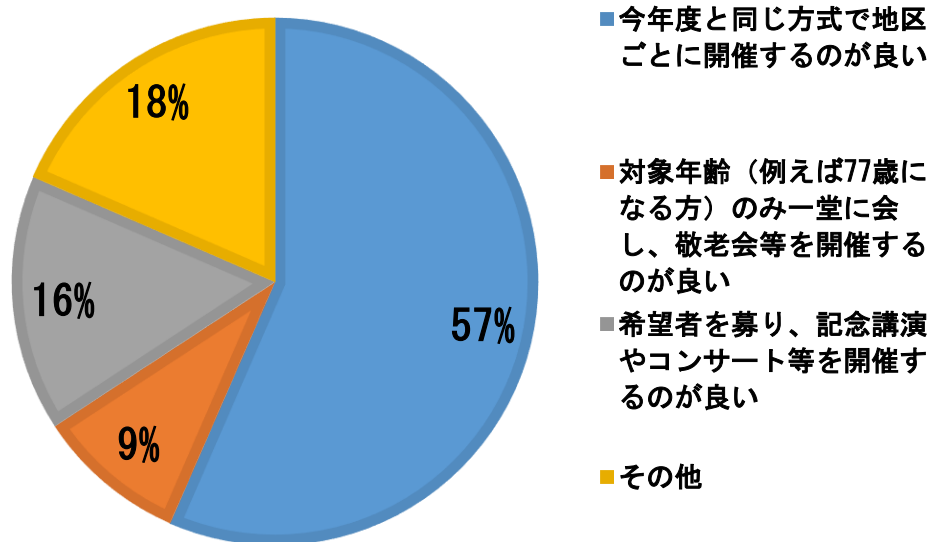
〈その他への意見：主なもの〉

- ・人数の多い地区・少ない地区の高齢者で差があるのは疑問。
- ・参加したくてもできない方もいます。
- ・公平と公助、行政区が関与した・しないではない。
- ・敬老会実施行政区は、年度計画と予算に組み込まれているため。
- ・敬老会開催の有無は行政区の区長の責任であり、そこに住むお年寄りには何の責任もない。
- ・敬老会を行う役員への配慮は別だと思う。
- ・敬老会の実施は、参加する人数が少ないので、会を実施する、しないに関係なく、一律の交付金にした方が良い。
- ・各地区、各人の事情があるからそこに差を設ける必要はない。
- ・一人当たりの交付額は同額とし、敬老会を開催する行政区には別枠で交付金を交付する形とすれば良いと思う。
- ・同じ住民であるのに金額で差をつけるのは平等ではない。敬老会を実施するのは労力が大変だというが、それは行政区役員の務めである。
- ・1人あたりの金額に差を設けたことが問題であり敬老会を開催するための準備費用を別枠で設けるべきである。
- ・自然権に基づく憲法の平等権に違反しているから。

【問7】 今後の敬老会等は、どのような形で開催するのが望ましいと思いますか？

(一つに〇)

- ア 今年度と同じ方式で地区ごとに開催するのが良い。
- イ 対象年齢（例えば77歳になる方）のみ一堂に会し、敬老会等を開催するのが良い。
- ウ 希望者を募り、記念講演やコンサート等を開催するのが良い。
- エ その他

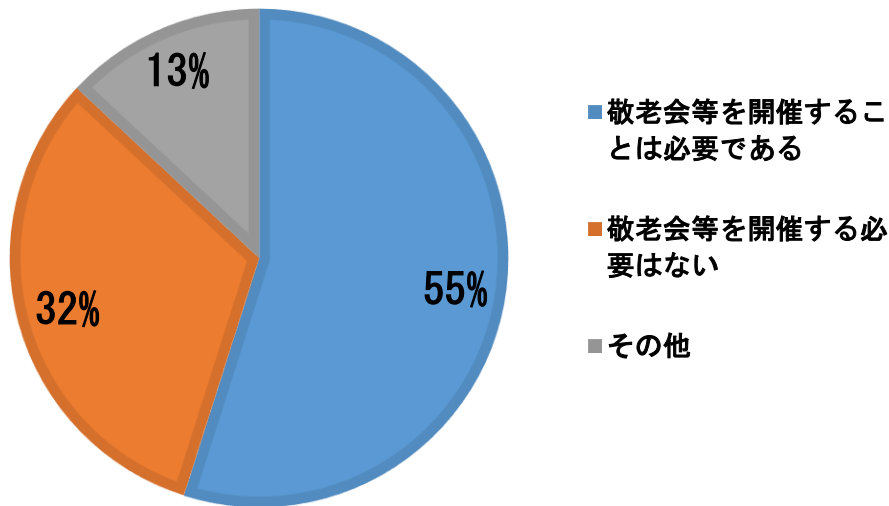


〈その他への意見：主なもの〉

- ・市で記念品を用意して行政区で配る。
- ・行政区にまかせるのではなく、市が統一した内容で開催してほしい。
- ・敬老会の趣旨を理解し市主体の行事にして継続して行くべき。
- ・旧市町村、支所ごとに記念品を決めて配布する（金額は同じ）敬老会開催する、しないは各行政区で決める。
- ・楽しみにしている方がいることも承知していますが、出席率を考慮するとこの経費を別な福祉施策に活用すべきではないかと思います。
- ・旧5市町村に分けて、敬老会を開催するのが望ましい。
- ・一堂に開催するのは良いことだが、式典だけで、他の地区の人々と交流・話し合いができないので、飲食を共にしてコミュニケーションとれる方にしてほしい。
- ・そもそもの事業の目的・趣旨を考えれば”お祝い”なのだから、予算をかためて、お祝いのムードを作る必要があると思います。惰性で行われているイベントでは悲しくなると感じるため。
- ・補助金の額には差をつけなくて、地区ごとに開催・内容は同じでよい。
- ・新しい方策を考える時期に来ている。市の財政難で年々金額が少なくなっているなら、無理にやる必要はないと思う。
- ・参加者少なく、事故も心配であり、開催しない方がよい。

【問8】 敬老会等を開催することについて、どのように思われますか？（一つに○）

- ア 敬老会等を開催することは必要である。
- イ 敬老会等を開催する必要はない。
- ウ その他

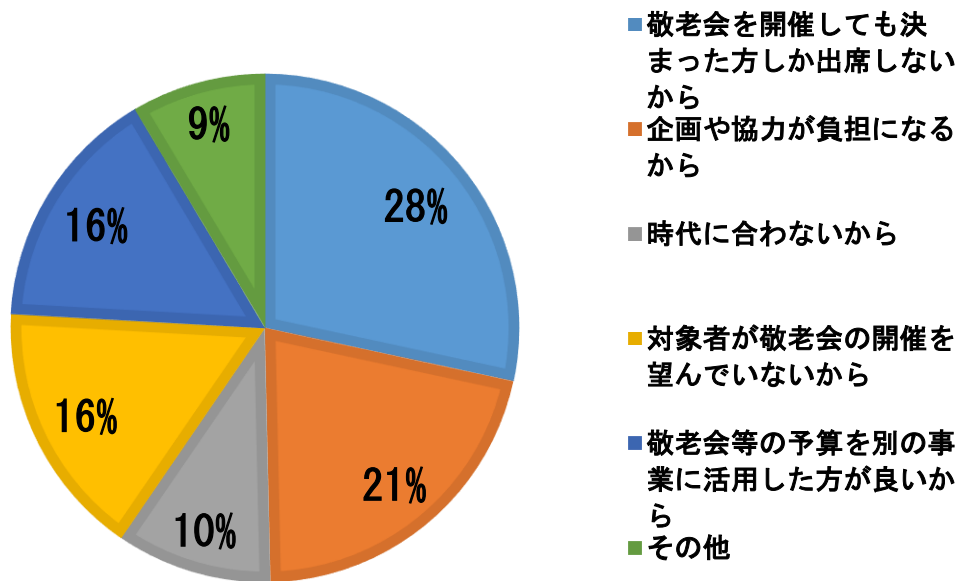


〈その他への意見：主なもの〉

- ・長年のご苦勞に感謝と長壽を祝う必要があると思います。
- ・敬老会等を開催できる地区はやるべき。そうでない地区は今まで通り記念品配布で対応すべき。
- ・敬老会は今後消えていくものなのかも知れません。
- ・高齢者は唯一楽しみにしているので続けるのが望ましい。
- ・各行政区が必要であると判断するならばやればよい。
- ・必ずしも必要ではないと思うが、敬老者の交流の場と考えると反対はできない。
- ・敬老者は敬老会開催について興味がないように見受けられました。
- ・敬老会を担当する人が高齢者の為、段取りが難しい。
- ・希望者が多ければ開催する。
- ・開催に賛同は出来るが、企画に工夫が必要。現状のままなら開催の必要性が薄らいでいく。
- ・近年、高齢者の交流が希薄になっている中、交流の場が増えるのはよい事だと思います。
- ・開催方法、交付額で毎年もめるのであれば、開催する必要はない。
- ・その意義は大切だと思うが、現行のやり方では無理がある。
- ・敬意を表すために敬老会を開催することは必要である。
- ・別の事業に轉換する時期になっていると思います。

[問9] [問8]で「イ 敬老会等を開催する必要はない」と回答された方へ伺います。どのような理由からですか？（あてはまるものすべてに○）

- ア 敬老会を開催しても決まった方しか出席しないから。
- イ 企画や協力が負担になるから。
- ウ 時代に合わないから。
- エ 対象者が敬老会の開催を望んでいないから。
- オ 敬老会等の予算を別の事業に活用した方が良いから。
- カ その他

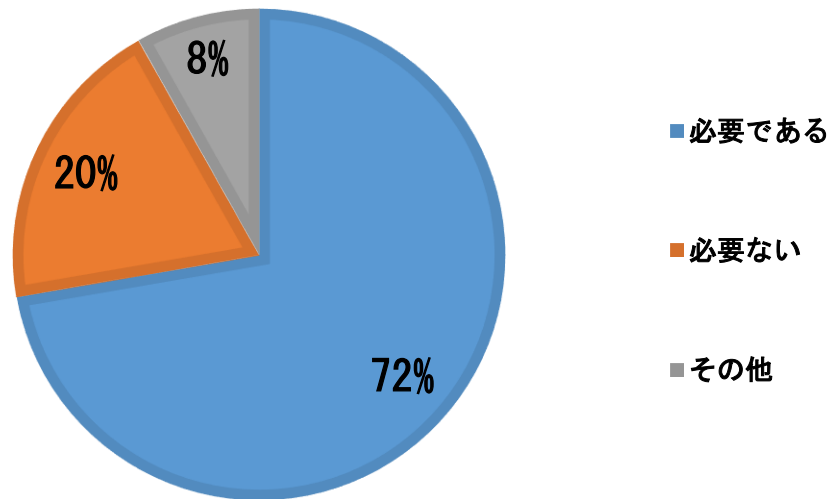


〈その他への意見：主なもの〉

- ・平等・公平の観点から記念品配布が望ましい。
- ・担当する人が高齢者のため。
- ・子供の教育に活用を願います。
- ・高齢者が増加の一途をたどっている現状下、開催する場所を確保すること自体難しい。身体的理由で参加ができない人もいるので不平等が生じる。
- ・高齢化が進んでいる現在、他の所に予算をあてても良いのでは。
- ・健康な方しか出席できない。
- ・77歳は敬老者では無く、また敬老者はどんどん増えて行き、いつまでこの制度が維持できるか不明。敬老年齢を上げるか、敬老会を廃止するべきと思います。

【問 10】 敬老会等を開催しない場合の記念品配布について、どのように思われますか。(一つに○)

- ア 必要である。
- イ 必要ない。
- ウ その他

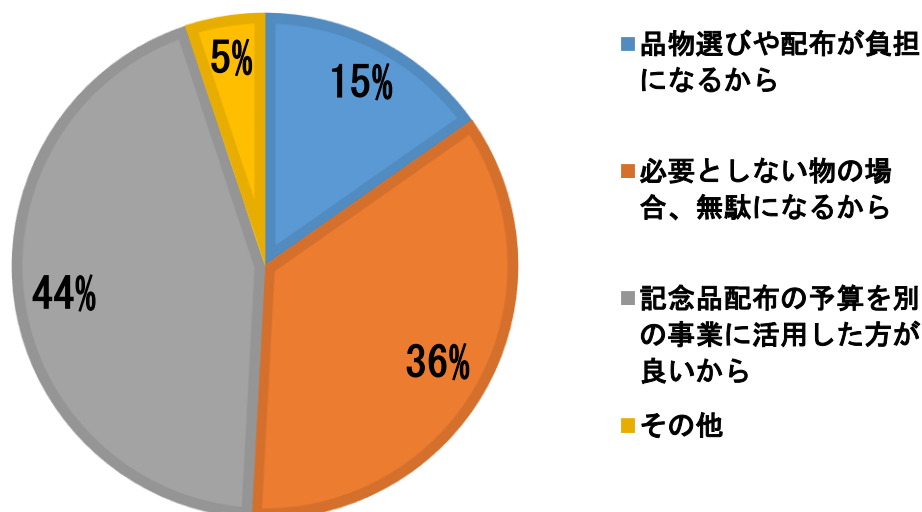


〈その他への意見：主なもの〉

- ・市で予算が確保できれば継続していただきたい。
- ・行政区を基本とした交付金制度において、記念品配布が当然のような運用には検討の必要があると思います。行政区の財政状況により、上乘せ配布（単価）等により、市内対象者への差異が生じる状況があり、記念品については市として措置すべきと思います。
- ・喜多方の繁栄、隆盛の為に長年地元に残り貢献され、年を重ねてこられた方々ですので、市からの感謝状などでも良いと考えます。
- ・その意義は理解するが、実施のための予算や労力を考えること何とも言えない。
- ・皆さん、物はたくさん持っています。しかし「心」の問題であり、うれしい気持ちはあると思う。
- ・敬老会を開催しない場合の記念品は敬老の日が祝日となっていますので、お祝いとして必要と思います。
- ・参加できない人の事を考えれば、せめて半額程度の商品券などを渡すことで気持ちも安らぐのではないのでしょうか。
- ・敬老会に参加できない人もあり、公平感を維持するため、記念品が必要である。
- ・敬老会は行政区に任せるとしても、敬老の日があるので記念品として補助をお願いしたい。
- ・喜多方市による記念品配布は必要ない。

[問 11] [問 10]で「イ 必要ない」と回答された方へ伺います。どのような理由からですか？（あてはまるものすべてに○）

- ア 品物選びや配布が負担になるから。
- イ 必要としない物の場合、無駄になるから。
- ウ 記念品配布の予算を別の事業に活用した方が良いから。
- エ その他



〈その他への意見：主なもの〉

- ・ 敬老会を開催しないで記念品を配布しても何も意味がない。嬉しくもなんともない。
- ・ その意義は理解できるが、事業に係る予算では持ち出しを強いられ継続が難しい。

[問 12] 今後の敬老事業につきまして、ご意見等がありましたらご自由にご記入ください。

〈主なもの〉

- ・ 事業についてはぜひ継続いただきたい。
- ・ 年齢を 80 歳以上にし、タオル 1 本くらいにし、別の事業に活用した方がいい。
- ・ 年に一度のことで、地域の交流の場が有ることはとても良いことだと思う。
- ・ 同じ行政区内であっても、高齢の方と若い世代の者が接する機会はほとんどないのが、当地区の現状です。敬老会が高齢者を敬うという本来の目的達成の中で、若い世代が高齢者とつながる、ひとつのきっかけにもなっていると感じております。敬老会開催にはそれなりの労力がかかりますが、必要な事業であると当地区では認識しておりますので、市に対しては事業継続のための補助を希望いたします。
- ・ 時代に合わせ廃止するべきと考えます。

- ・敬老会を開く地区と記念品配布だけの地区では、労力や諸経費に当然差が出るので、交付額に差がつくのは仕方ないと思います。
- ・体の不自由な人とそうでない人との平等化を望みます。
- ・全員に記念品を配るだけの敬老事業であれば市で物を統一、配布してほしい。
- ・今後も続けてほしい。大先輩たちへの感謝の心を忘れてはいけないと思います。
- ・今後、補助金額をもっと上げてほしい。
- ・高齢者を介護している親族を支援する事業をさらに充実していただきたい。
- ・昔のように、小学校や幼稚園の協力も得て踊りや合唱等披露出来たら最高だと思います。
- ・行政区ごとの判断に委ねればよいと思う。
- ・元気な方もいれば、寝たきりの方もいらっしゃいます。会を開催して、はたして喜ばれるかという参加・不参加で良し悪しがつくのも考えられます。送迎の負担、途中体調が悪くなった時の対処責任もあります。
- ・敬老会を実施する、しないは、各行政区の判断にまかせ、行政区毎に交付金を人数分配布した方がよいと思います。
- ・敬老会なども大切だとは思いますが、子ども世代への催し物を増やした方がこれからのためだと思います。
- ・敬老会そのものが無くなってもいいと思う。市の財政が厳しいと言っていたので無理しないでいいと思う。
- ・敬老の精神は大事であり、地区で差があるとは思えない。敬老会を実施するかしないかで祝う気持ちに違いがあるはずはない。楽しみにしている方もいらっしゃるため引き続き開催していただきたい。
- ・各行政区により会に対する温度が異なる為、実行者の負担の感じ方も違い一概には選択出来ない。
- ・高齢化が進む中でなかなか難しい問題ですが、地区でいろいろ考えお年寄りのニーズに合わせたやり方で、やれそうと思われることで対応していく。
- ・やはり市の事業であるならば、公平・公正に一律で実施すべき。
- ・低予算（財政難だから仕方ない）であり、受け取る側もあまりありがたみがなく、何よりも段取りする側も大変なため、時代に合わせ廃止するべきと考えます。
- ・人数が増えてくるため金額は大きくなって良いが、差をつけずに割り当てる。使い方は各行政区に任せる。
- ・事業縮小ではなく、逆に充実した事業の実施が必要だと思う。（今までの形にこだわることなく）
- ・交付金制度は、平等・公平・公正一律でなければなりません。敬老会を実施する行政区では一部に大変だから差をつけてもらいたいとお話でしたが、年度の事業計画、予算に組み込まれているので実施行政区で考えなければなりません。市では、そこは踏み込む必要はないと思います。それより高齢の一人暮らし、買い物（食料品）にも行けない人に寄り添う必要があると思います。

ご協力ありがとうございました。